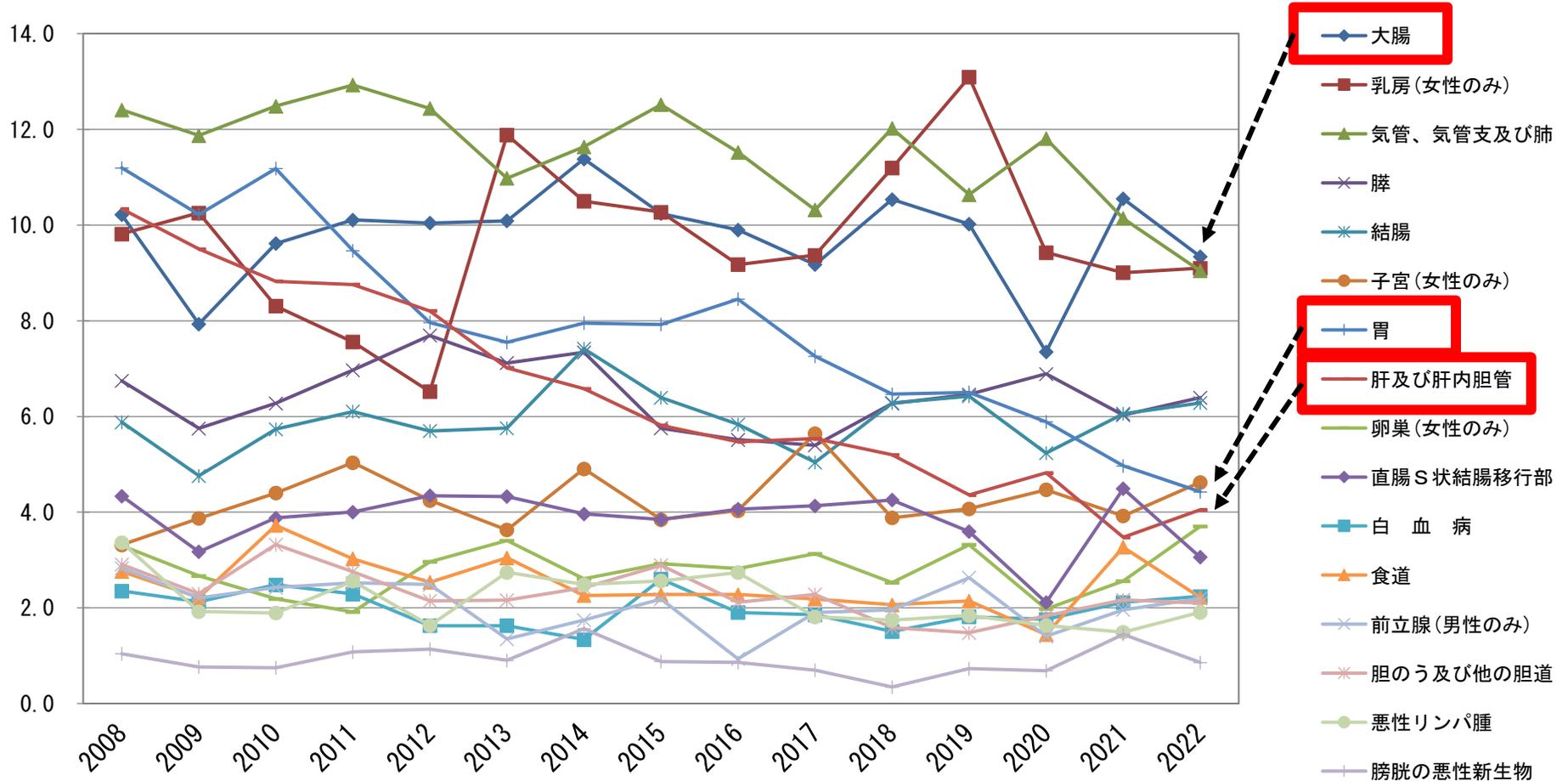


各がんの登録状況からみた 評価のまとめ

※令和5年度は、全国がん登録において2020（令和2）年の罹患者に関するデータが確定される年ですが、全国がん登録システムのトラブルにより確定作業が遅れており、2019（令和元）年のデータが最新となります。

部位別 75歳未満年齢調整死亡率 (人口10万対)

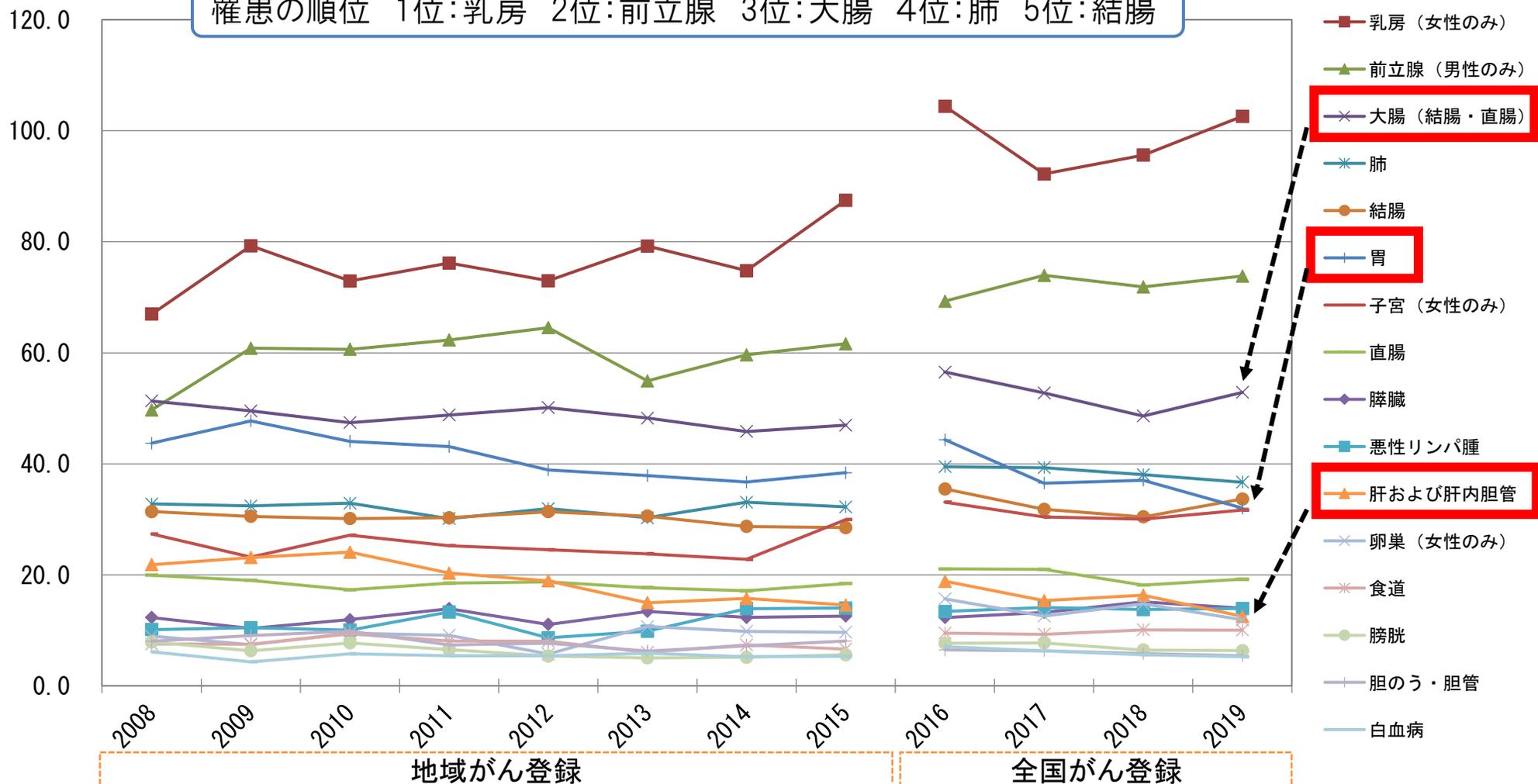


出典: 国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(人口動態統計)

大腸がんは、長期的にみると横ばいで推移しているが、2021年に大きく増加し、比較している部位の中で1位となった。
胃がんと肝がんは減少を続けており、2021年は10年前(2011年)と比較して胃がんは約半減、肝がんは6割減少している。

部位別年齢調整罹患率(人口10万対)(上皮内がんを除く)

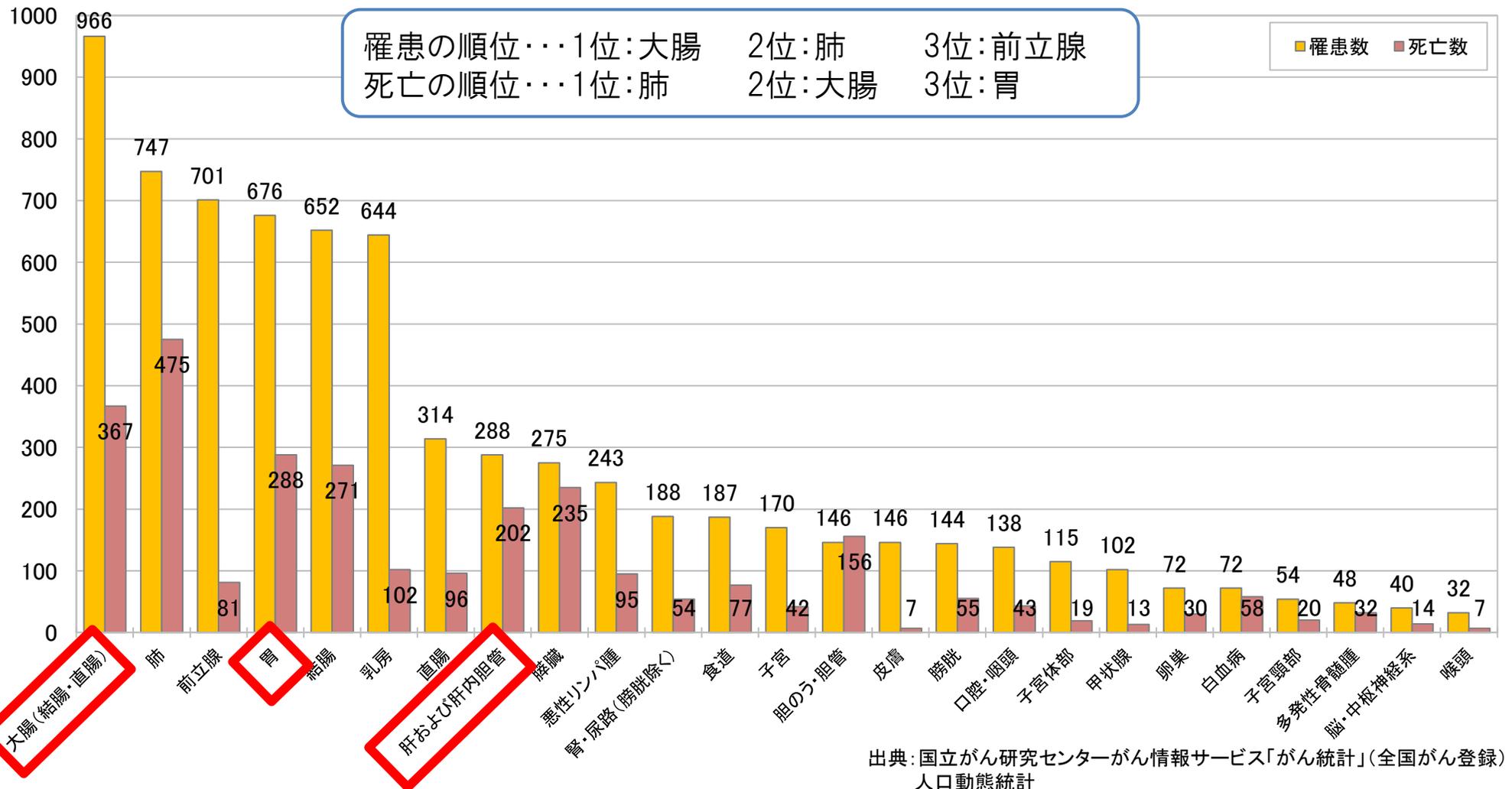
罹患の順位 1位:乳房 2位:前立腺 3位:大腸 4位:肺 5位:結腸



出典: 国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(全国がん罹患モニタリング集計(MCIJ))
 国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(全国がん登録)

大腸がんは、比較している部位の中で第3位にあり、横ばいで推移している。
 胃がんは、比較している部位では中間の順位にあり、長期的に横ばいの推移である。
 肝がんは、比較している部位では下位の順位にあり、減少傾向で推移している。

山梨県の罹患数と死亡数の比較(2019年)



出典:国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(全国がん登録)人口動態統計

がんにかかった人の数(罹患数)は、大腸がんが最も多く、肺がん、前立腺がんの順である。
 がんにより亡くなった人の数(死亡数)は、肺がんが最も多く、大腸がん、胃がんの順である。
 乳がんや前立腺がんのように罹患数に比べて死亡数が少なく、死亡原因になりにくいがんがある一方で、
 肝がんやすい臓がん、胆のうがんなど、罹患数と死亡数の差が小さいがんもある。

胃がん

1. 75歳未満年齢調整死亡率は、長期的に全国を下回っており、2012年から2022年の10年間で45%減少している。
2. 発見経緯別の進行度(2016~2019)は、検診等で発見されたうち限局が78.2%で他のがんに比べて高い。
3. 5年相対生存率は、限局では97.9%であるが、領域では46.9%に半減しており、早期発見がより重要である。

大腸がん

1. 75歳未満年齢調整死亡率は、長期的に横ばいで推移している。
2. 発見経緯別の進行度(2016~2019)は、検診等で発見されたうち限局が63.1%で、胃がんや肝がんの70%台と比べて低い。
3. 5年相対生存率は、限局では94.0%であるが、領域では77.1%に減少しており、早期発見が重要である。

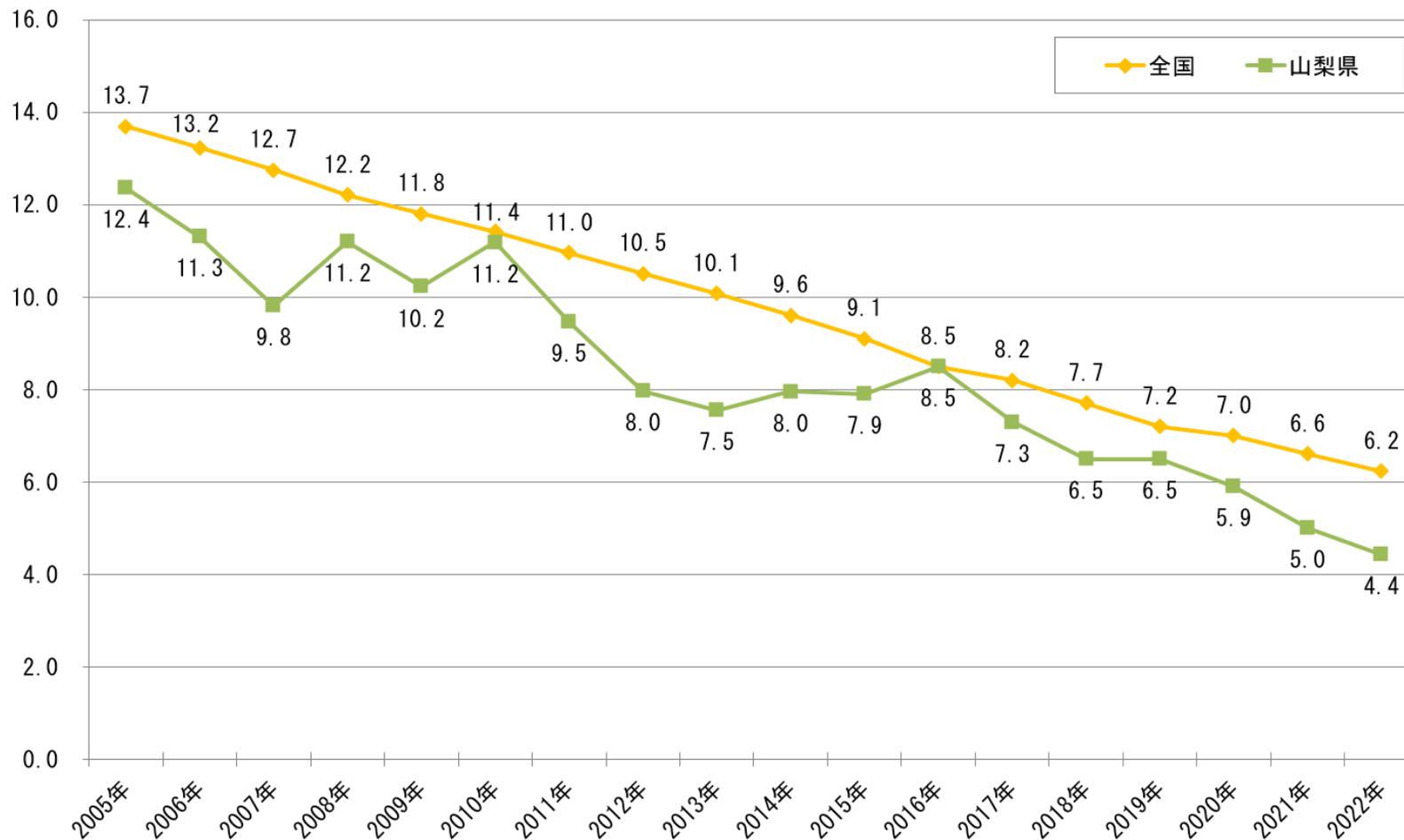
肝がん

1. 75歳未満年齢調整死亡率は、10年前に比べ51%減少している。2021年に初めて全国を下回ったが、2022年は再び全国を上回っている。
2. 発見経緯(2016~2019)は、他疾患の経過観察中が50.9%で、対策型検診を行う5がんに比べて最も高く、検診等は9.1%で最も低い。
3. 胃がんや大腸がんに比べ、進行度(2016~2019)は限局が60.5%で高いが、5年相対生存率は限局であっても59.4%と低い。

胃がん

1. 75歳未満年齢調整死亡率は、長期的に全国を下回っており、2011年から2021年の10年間で47%減少している。(参考資料2スライド35)

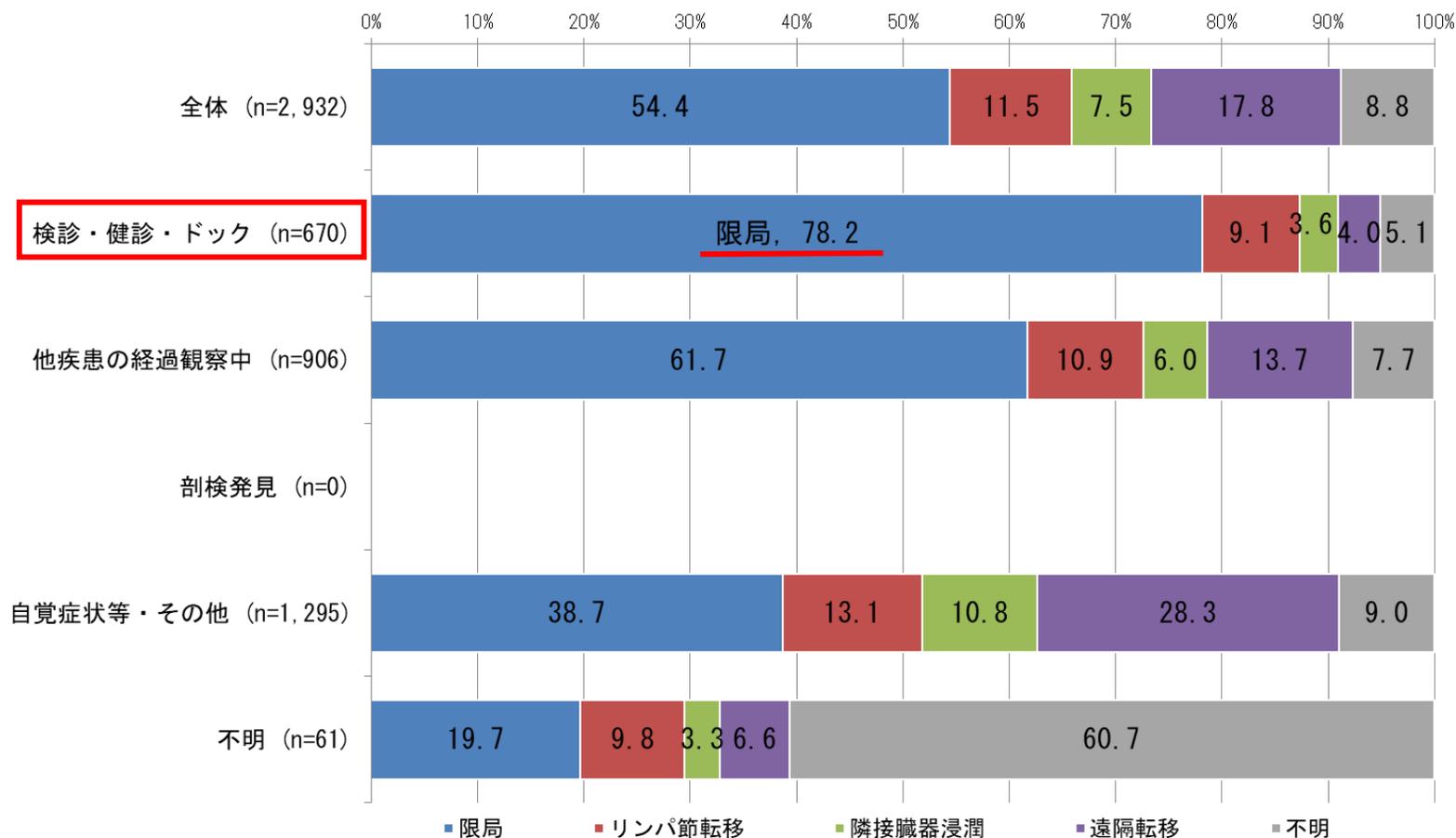
胃がん75歳未満年齢調整死亡率（人口10万対）



出典:国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(人口動態統計)

2. 発見経緯別の進行度(2016~2019)は、検診等で発見されたうち限局が78.2%で他のがんに比べて高い。
(参考資料2スライド42)

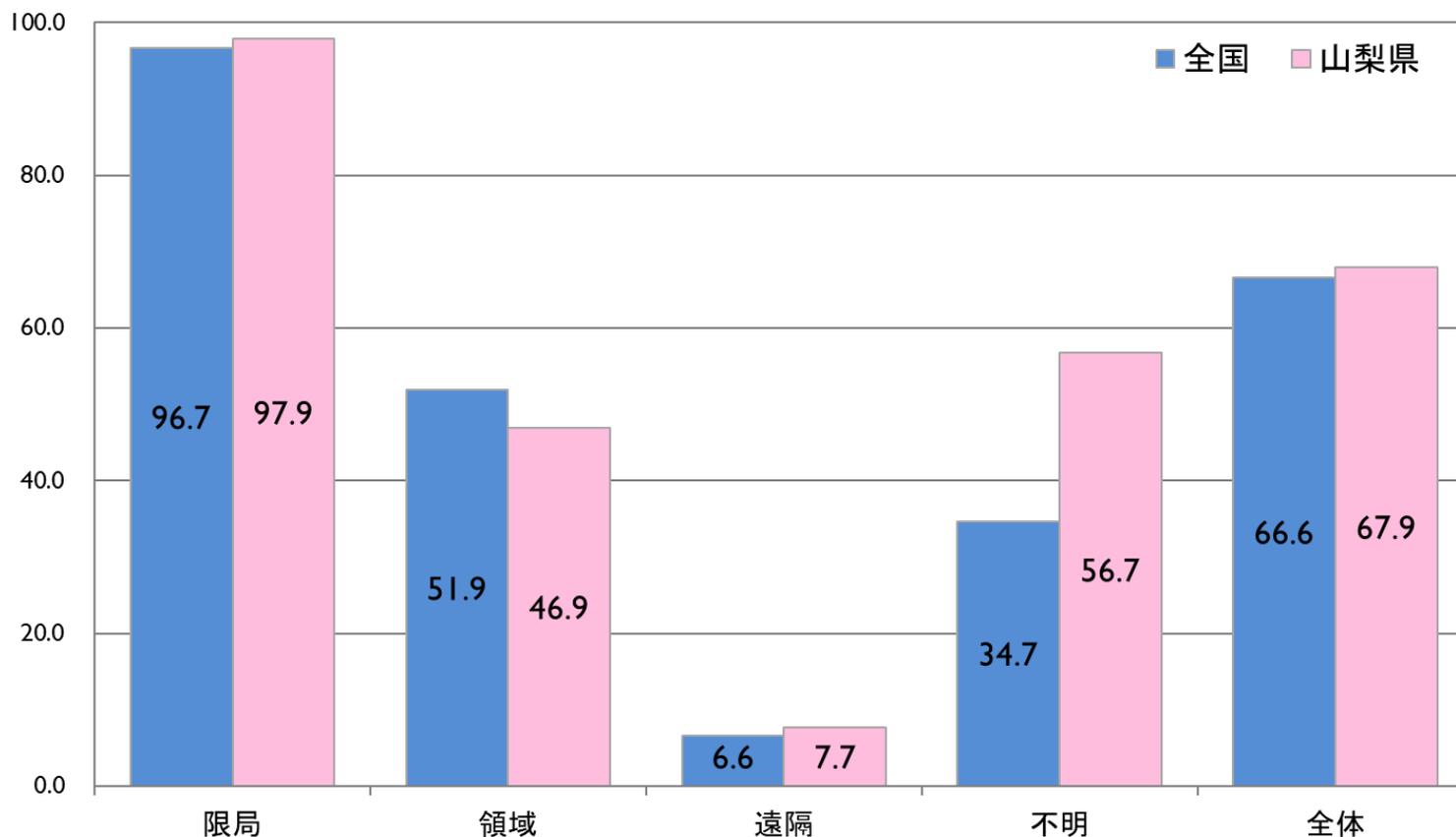
胃がん発見経緯別の進行度(2016~2019年)



出典: 全国がん登録 山梨県研究利用目的データから抽出分析

3. 5年相対生存率は、限局では97.9%であるが、領域では46.9%に半減しており、早期発見がより重要である。（参考資料2スライド43）

胃がん進行度別5年相対生存率(2009～2011年)(%)

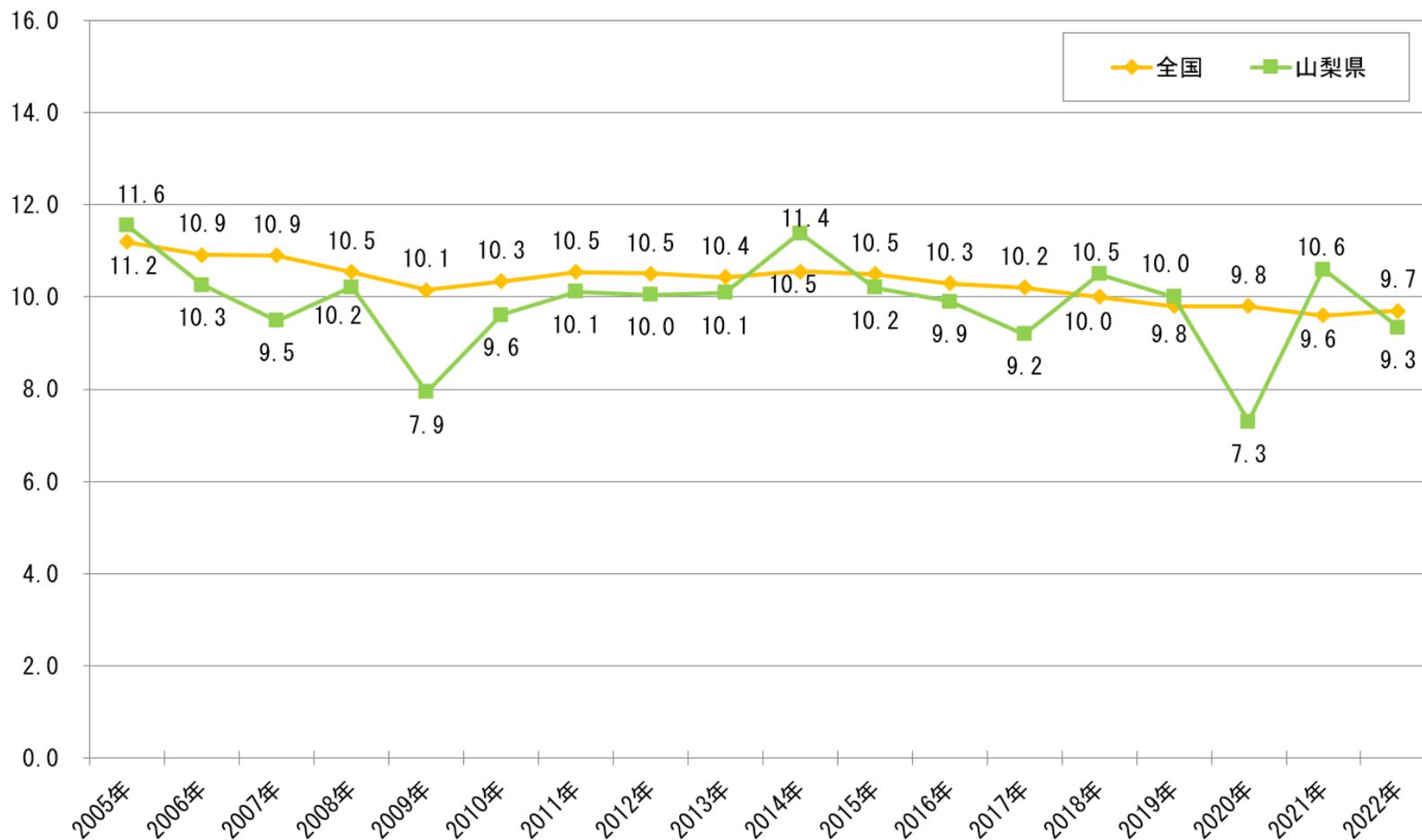


領域：リンパ節転移 + 隣接臓器浸潤

大腸がん

1. 75歳未満年齢調整死亡率は、長期的にみると横ばいで推移しているが、2021年に大きく増加し、全国を上回っている。（参考資料2スライド45）

大腸がん75歳未満年齢調整死亡率（人口10万対）

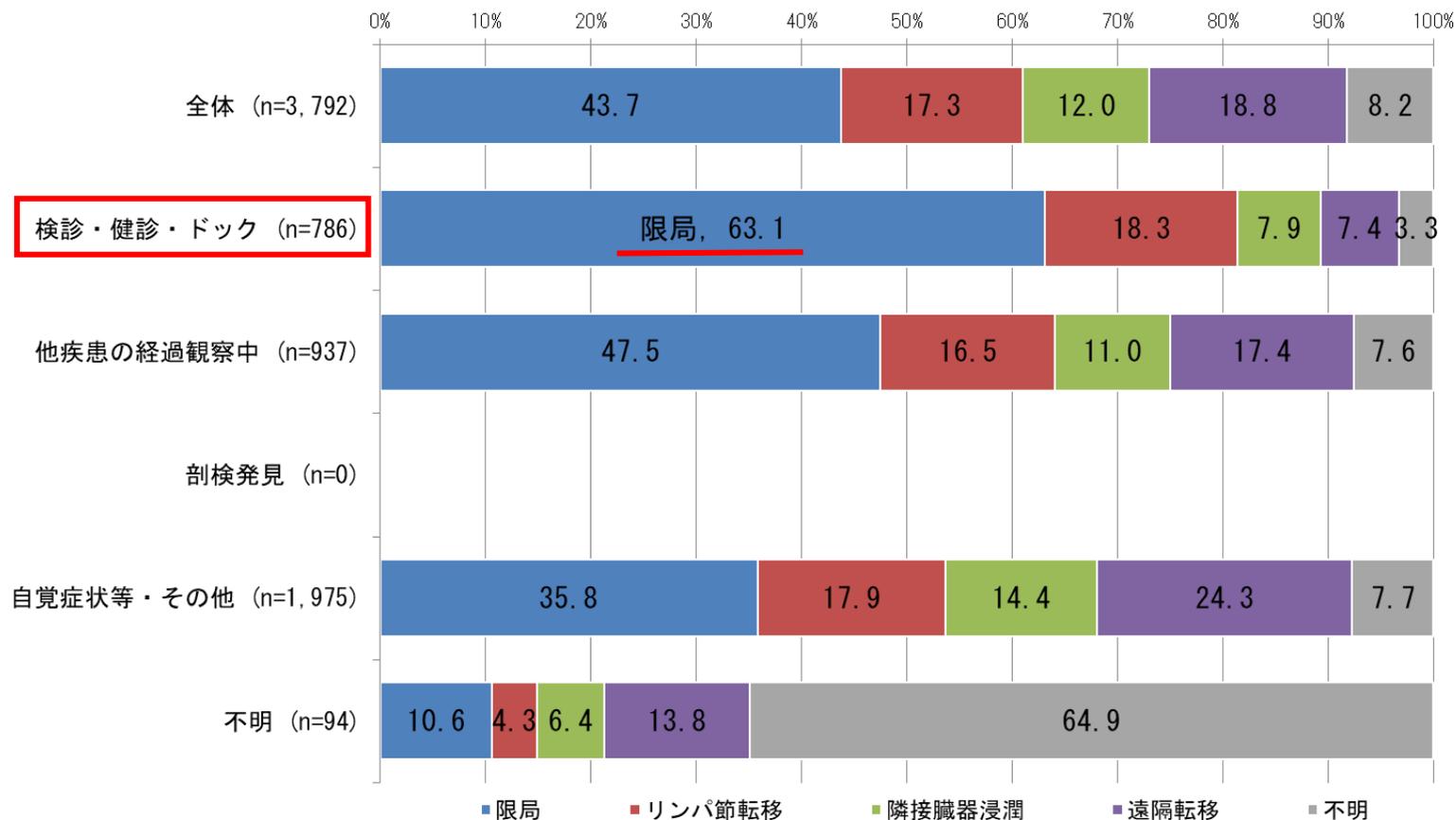


出典: 国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(人口動態統計)

大腸がん

2. 発見経緯別の進行度(2016~2019)は、検診等で発見されたうち限局が63.1%で、胃がんや肝がんの70%台と比べて低い。(参考資料2スライド52)

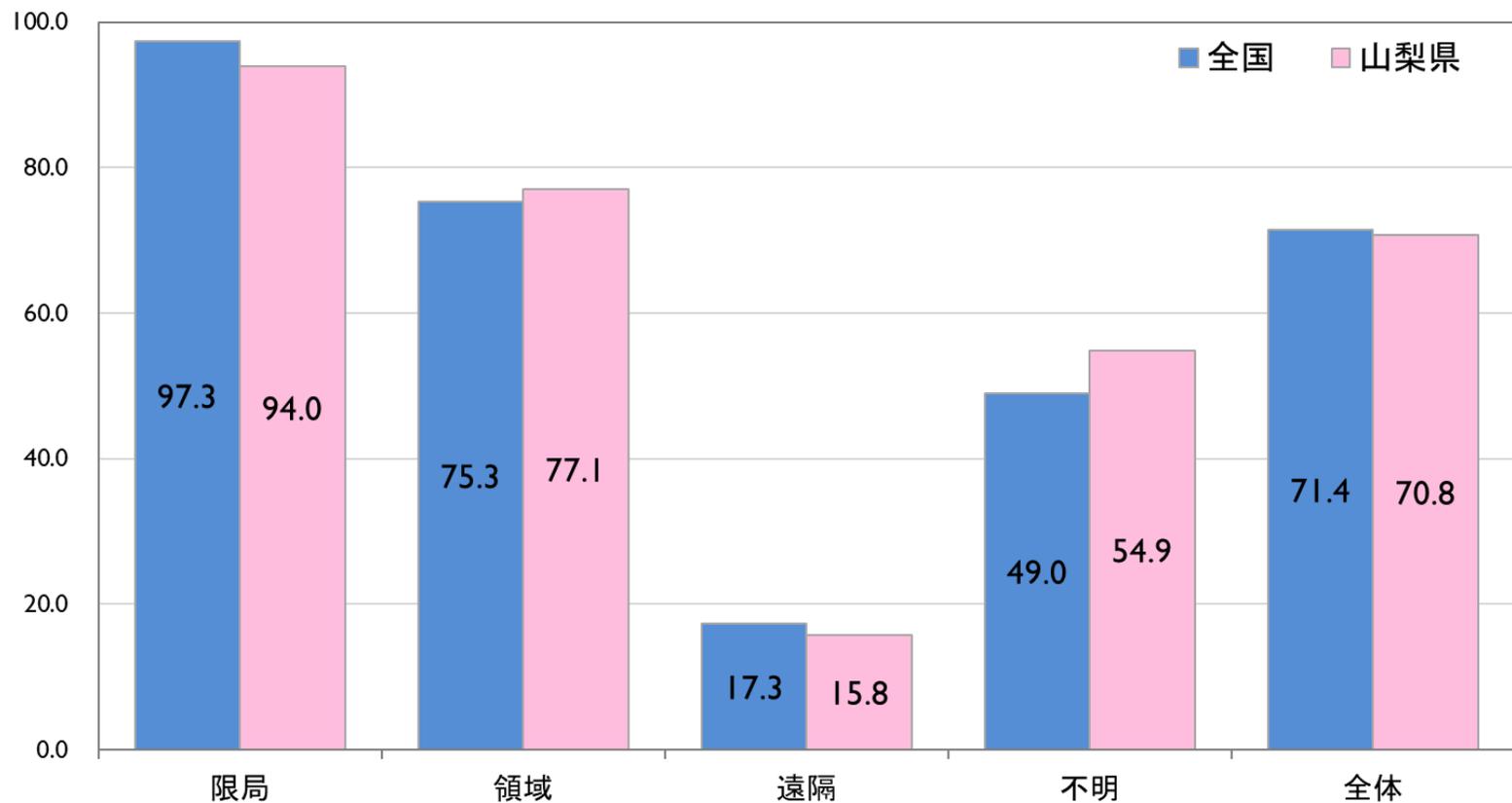
大腸がん発見経緯別の進行度(2016~2019年)



大腸がん

3. 5年相対生存率は、限局では94.0%であるが、領域では77.1%に減少しており、早期発見が重要である。
(参考資料2スライド53)

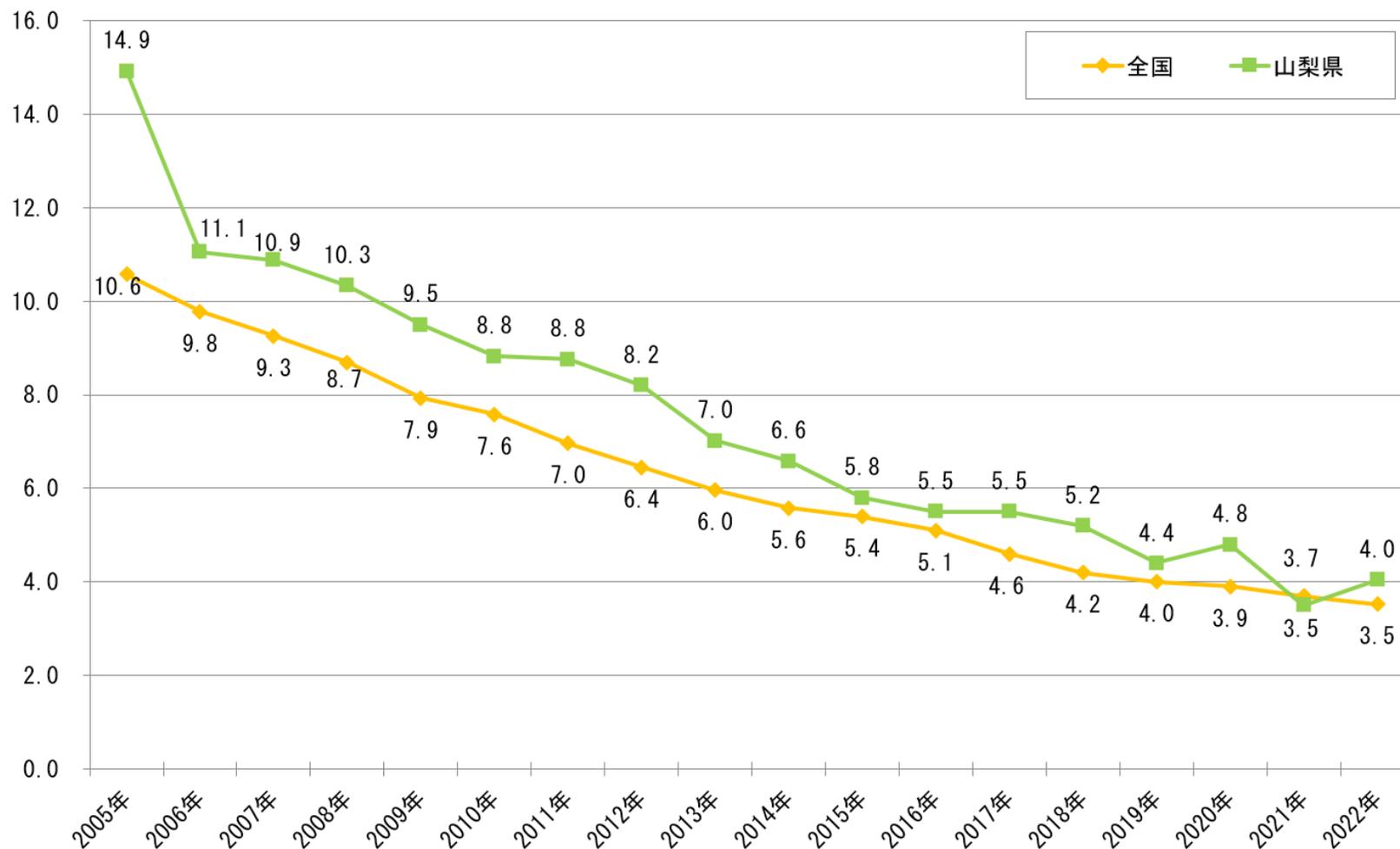
大腸がん進行度別5年相対生存率(2009~2011年)(%)



領域：リンパ節転移 + 隣接臓器浸潤

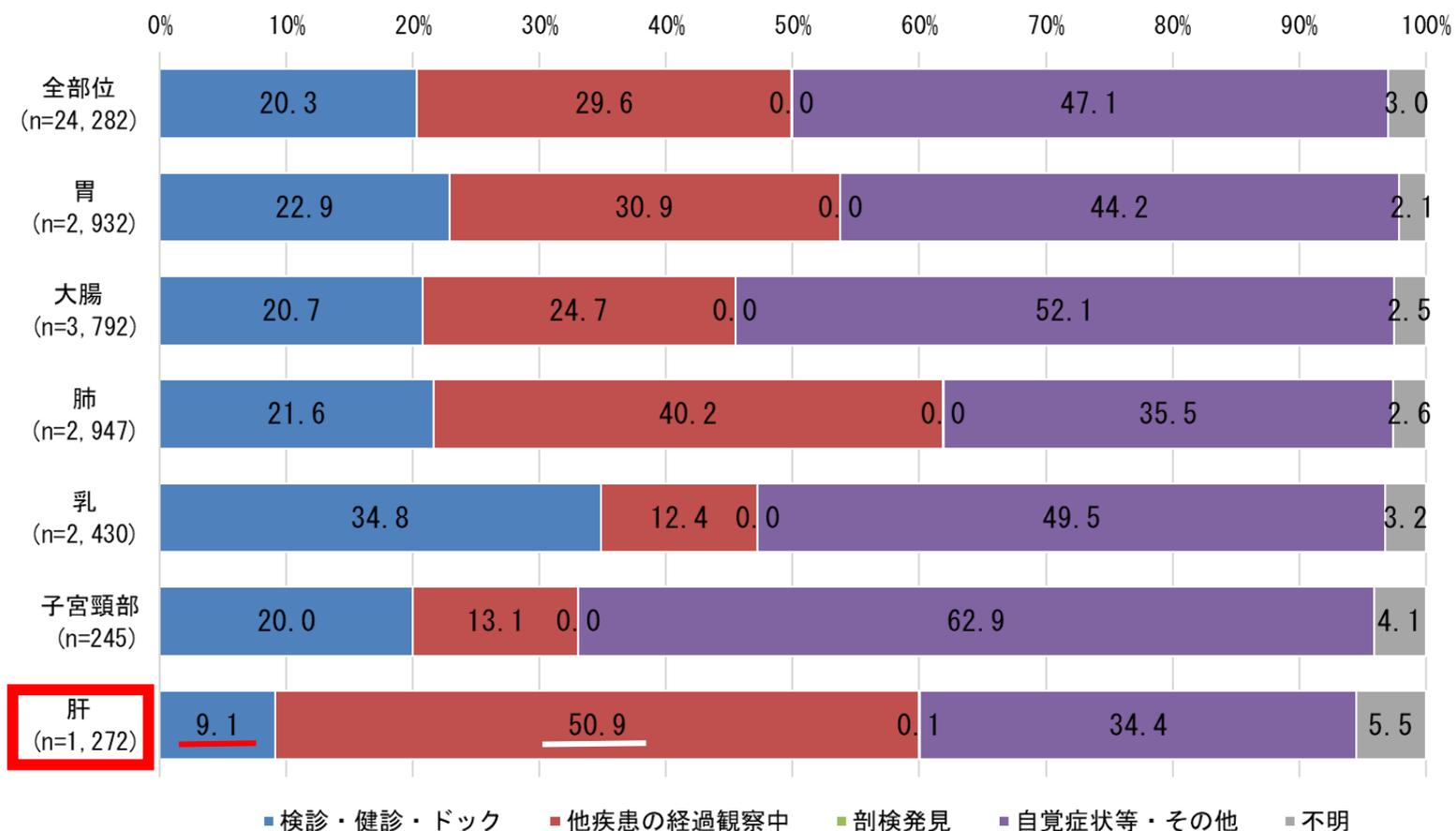
1. 75歳未満年齢調整死亡率は、10年前に比べ約6割減少し、初めて全国を下回った。
 (参考資料2スライド55)

肝がん75歳未満年齢調整死亡率 (人口10万対)



2. 発見経緯(2016~2019)は、他疾患の経過観察中が50.9%で、対策型検診を行う5がんに比べて最も高く、検診等は9.1%で最も低い。(参考資料2スライド16)

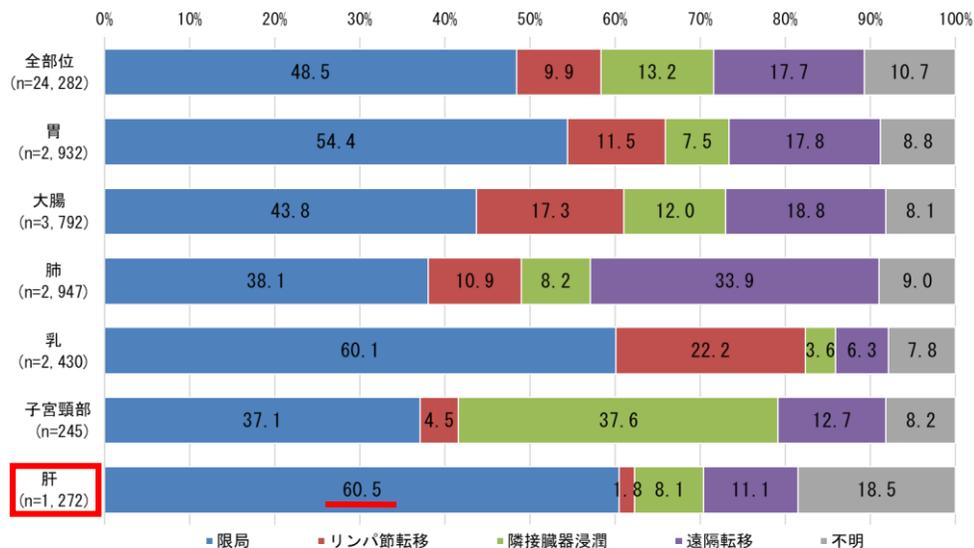
部位別の発見経緯 (2016~2019年)



肝がん

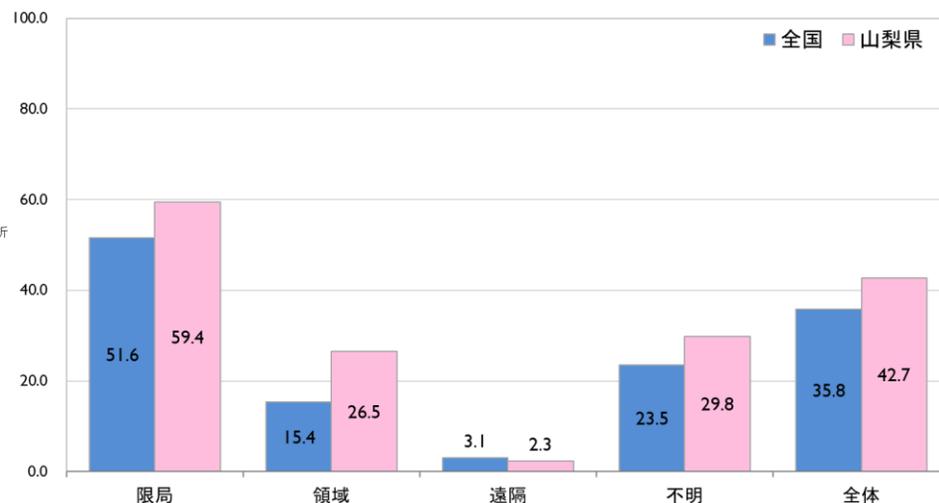
3. 胃がんや大腸がん比べ、進行度(2016~2019)は限局が60.5%で高いが、5年相対生存率は限局であっても59.4%と低い。(参考資料2スライド17、63)

部位別の進行度 (2016~2019年)



出典: 全国がん登録 山梨県研究利用目的データから抽出分析

肝がん進行度別5年相対生存率(2009~2011年)(%)



領域: リンパ節転移 + 隣接臓器浸潤

出典: 全国がん罹患モニタリング集計2009~2011年生存率報告